

応援
募集中

“鳴り砂”のある砂浜、断崖の絶景、工場群…豊かな自然と人工物が織りなす
北海道・西いぶりの
どこにもない景色と物語を映画に。



熱い想いをもった
この町のみんなが参加します！

トリノ映画祭
グランプリ＆観客賞を
日本人初のW受賞、
フランスKINOTAYO映画祭
最優秀観客賞受賞の
坪川拓史氏が監督

現在絶賛撮影中!! オムニバスフ話

モルエラニの霧の中

脚本・監督／坪川拓史 製作／室蘭映画製作応援団
www.moruerani.com

題字／阿部一猛
写真撮影／山田清滋

ご挨拶

西いぶり発「純正ご当地映画」 プロジェクトについて

近年、ロケ地を訪れる人が増える等、地域に一定の効果があると認められている「ご当地映画」ですが、監督が愛着を持ってそのまちに暮らし、同じまちに住んでいる人たちと共に作るという「純正ご当地映画」はありませんでした。

しかし、私たちのまちには、独特の「どこにもない景色」と、世界でいくつもの賞を受賞した「一流の映画監督が暮らしている」という素晴らしい条件が揃っていたのです。この幸運を最大限に生かすべく、自分たちで資金や労力をも賄って、世界に通用する最高のクオリティの「このまち」映画をつくろう。

そんな映画史上前代未聞のプロジェクトがスタートしたのは2014年の3月のこと。皆様のご支援のおかげでこれまでに、2014年5月、10月、2015年5月と3度の撮影を行いました。

こうしてつくる映画は製作段階から注目度も高く、また、完成した映画そのものがこの地域の素晴らしさを全国や世界の人々に知ってもらうための「ガイドブック」や「旅のしおり」として重要な新たな切り札となります。

まちへの想いを「純正ご当地映画」として形にすることで、「このまち」のこれからをつくる。そんな、単なる映画づくりとは一線を画したプロジェクトが、「モルエラニの霧の中」です。

室蘭映画製作応援団

キャスト

2015年3月までの発表分(他キャストは随時発表)

一流の豪華俳優陣



河合龍之介



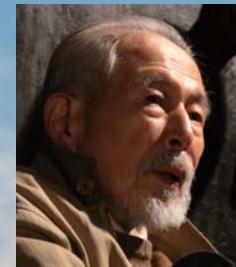
大塚寧々



香川京子



久保田紗友



坂本長利



清水紘治



小松政夫



大杉漣

脚本・監督

坪川拓史（室蘭生まれ）

1972年、北海道室蘭市生まれ長万部育ち
2011年家族とともに東京から室蘭へ移住



長年暮らした東京から、北海道室蘭市へ移り住んで4年が経ちました。この4年間で僕はすっかりこの町に魅せられてしまい、この地を舞台にした脚本を書きました。4年の間にお会いした方、見聞きしたエピソードをたくさん盛り込んだ脚本です。半分実話のお話を、実際のその地で作るという、一風変わった映画になります。函館や小樽に優るとも劣らないこの町の魅力を、多くの方に知ってもらい、そして残していくことを強く思ながら、いま準備を始めました。もちろんこの町も、(美しいこと)ばかりが溢れているわけではありません。いざこの地方都市にもみられる(哀しみ)も抱えています。あらゆる世界がデジタル化、グローバル化され、利便性の悪いものや生産性の低いものが生きにくい時代です。それに伴ない、消えゆく古き良きものたち、去っていく愛しきものたち。それら(哀しみ)をも包み込み、この(魅力的な地)で明るく力強く生きている人たちを描き、そして後世に残る作品にしたいと考えております。お力添えの程、どうぞよろしくお願ひ致します。

「日本工学院北海道専門学校」講師、上映会や講演会、新聞連載や地元ラジオ局で番組を担当する等、地域に根ざして活動中。アコーディオン奏者の一面も。2013年公開の最新作『ハーメルン』は、震災をはさんだ5年の歳月を経て福島県昭和村の人たちの協力のもと完成。ロケ地巡りツアーや劇中設定の「イチョウ祭り」が実際に行われる等大きな「ハーメルン」効果も話題に。新作が期待されるアジアの若手監督の一人であり、誰よりも室蘭を愛する映画監督として、市民に信頼されている。

◆受賞歴 2005年:長編第1作目『美式天然』トリノ国際映画祭 グランプリ&最優秀観客賞W受賞(日本人初の快挙)、2007年:第2作目『アリア』フランスKINOTAYO映画祭 最優秀観客賞 ユーラシア国際映画祭で中央アジア映画連盟より最優秀作品に選出

ストーリー

珠玉の風景の全7話オムニバス

室蘭をはじめとした西いぶりの四季の中、7つの物語が紡がれてゆきます。あるストーリーで助演だったキャストが、他の話では主演を務める。様々な出来事が、それぞれの人生の、小さな、あるいは、大きなきっかけとなる。それはまるで現実での人間関係そのものと言えるでしょう。

市民キャスト

2015年3月までの発表分。
(他キャストは随時発表)



村田 博
(室蘭在住)

このまちの美しさに惹かれた監督の想いと、このまちが大好きだという自分の想いは同じだと感じました。微力ながら市民キャストとして参加させて頂きます。いい映画になると思いますし、是非そうしたいと願っています。



竹野留里
(室蘭在住)

私もいつかはこの生まれ育った町を出る時が来るだろう…そう思うと、室蘭の一欠片として、今の私をこの映画の中に入れて頂けて幸せです。山や坂が多い町だからこそ(学校のマラソンの時は嫌だけど)色々なアングルから楽しめる、外国に負けない美しい表情の自然と、温かい人々や友達がいるこの町が大好きです。

第5章 蒸気機関車の話

科学館の中庭に(蒸気機関車)が保存展示されている。整備と解説を担当するのは、かつてこの機関車に乗務していた(吉井)。ある日、科学館の改築計画が突然決定。それに伴って[機関車は廃棄処分される]ことを知らされた吉井は、下見に訪れた業者の男と揉み合いになり、仲裁に入った他の職員に怪我を負わせてしまう。責任を感じて職を辞した吉井は、深夜の科学館に忍び込んで[機関車]に乗り込みヤケ酒を呑むのだが……。

第6章 樹木医の話

老人ホームに入所している元樹木医の(河村)は、ホームを抜け出しても[町外れの草原に佇む一本の桜]の治療をしていました。そして、こっそり後をつけて来た介護士の(久保夏美)に、[この木にまつわる不思議な物語]を聞かせてくれる。

第7章 バレエ教室の話

湖のほとりに、納屋を改造したバレエ教室があった。教室の先生は、ここに一人で暮らす[足の悪い元バレリーナ](鈴子)。ある小さな事件がきっかけで、教室の閉鎖を決めた日の夜、鈴子のもとを奇妙な男が訪ねてくる。

エピローグ 鯨送りのランタン祭り

町に古くから伝わる[鯨送り]の祭の日。日没と共に砂浜でかがり火が焚かれると、それを合図に人々が集まってきて[自家製のランタン]を一斉に空へと放つ。その群衆の中には、七話全ての登場人物の姿もあり、それぞれの(その後)が同時進行で描かれる。

第1章 水族館の話

冬季休館中の小さな水族館。魚類担当職員の(河村)は「水族館の呼び物になるような珍しいクラゲ」を採取するため、毎日海へ通っていた。そんなある日、水族館に隣接する団地に謎めいた少年(武藤霧)が引っ越して来る。

第2章 写真館の話

町の老舗写真館『小林写真館』の主人が病に倒れ、疎遠だった息子(真太)が帰郷する。真太は、写真館の倉庫で[引き取られなかつた古い写真]を見つけてしまい、それを持ち主へ届けに行く羽目に。そんな折、同じ建物に入居している[キャンドル屋]の女主人(武藤映子)から、この写真館にまつわる(ある秘密)を聞かされる。

第3章 とある商店街と豪華客船の話

桜蘭商店街は、かつての賑わいが嘘のように寂れていった。都会から戻ってお茶屋を継いだばかりの(水野圭一)は、地元の少年少女合唱団を指導しつつ腰の重い他の店主たちを集めでは、商店街再起の策を練っていた。そんなある日、町の港に[外国の豪華客船]が寄港することが決まる。圭一と老店主たちは、商店街の再起をかけて[ある計画]を進めるところにする。

第4章 科学館と桃子の話

中学二年生の(桃子/とうこ)は七年前に父を亡くし、今は母と二人で暮らしている。母の再婚を機に町を離ることになった桃子は、今まで訪れるのを避けていた[父との想い出の残る場所]へ学校帰りに立ち寄るようになる。その中のひとつが、八年前に父と訪れた[町の科学館]。桃子は、科学館の中庭にある林の中で、父と交わした[小さな約束]の答えを探しはじめる。

応援・協賛など、随時募集中です！撮影はまだまだ続きます。

この映画は、室蘭をはじめとした西いぶりの四季の風景を取り入れるオムニバス形式のため、時間をかけて撮影しています。様々なお手伝いや、製作に向けての資金や物品のご支援など、皆様からのお力添えなしには映画は成り立ちません。ぜひこの機会に「このまち」の映画づくりにご参加ください。

完成までのスケジュール（予定）



「応援団として手伝いたい」「資金面でサポートしたい」「物品面でサポートしたい」など
＜個人＞＜法人＞による具体的な応援方法は別紙の『サポーター募集』用紙で
申込みいただくな、下記の問い合わせ先まで、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先

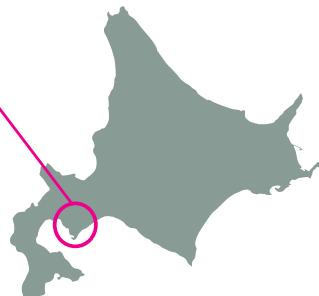
住所：〒050-0085 北海道室蘭市輪西町 1-32-8 2F

電話：0143-50-6200 E-mail：info@moruerani.com

公式サイト：www.moruerani.com Facebook：www.facebook.com/moruerani

北海道・西いぶりとは？／モルエラニとは？

西いぶりとは室蘭・登別・伊達・豊浦・壮瞥・洞爺の6市町村にまたがる、工場・温泉・火山・湖・農業・漁業・アイヌ文化など多様な特長が魅力的なエリア。モルエラニとは室蘭の語源の一つと言われているアイヌ語で「小さな下り坂」の意。



室蘭映画制作応援団



団長 沼田勇也（室蘭まちづくり放送株式会社 代表取締役）

「大好きな西いぶりの映画があれば良いのになあ」長年多くの人が願っていたことを応援するのは自然な流れでした。この地域の素晴らしいを世界に発信する作品を、皆様と一緒に創ってゆきたいと考えております。ひとりでも多くの皆様のご支援とご協力をお願い致します。



副団長 平武彦（一般社団法人室蘭観光協会 会長）

「この地域の素晴らしいを映画にしたい」この監督の言葉に、我々が過去に取り組んできた室蘭活性化の試みや想いが沸き上りました。景観、産業、歴史、生活等をそのまま映し出す本作品は、市民に元気を与えてくれるだけでなく、観光の素材として多いにPRできるものになります。どうぞ、より多くの皆様のご理解とご支援を頂けますようお願い申し上げます。



東京団長 八百坂 仁（株式会社駒八 代表取締役社長／室蘭ふるさと大使）

故郷「室蘭」を出て48年。「室蘭ふるさと大使」など年々関わりが深くなる中、この映画が室蘭の魅力を余すところなく全国、世界へ広める作品になると確信し、私も応援団の一員としてお手伝いさせて頂きます。どうか室蘭にご縁のある皆様、応援とご協力をお願い致します。

団長：室蘭まちづくり放送株式会社 代表取締役 沼田勇也

副団長：一般社団法人室蘭観光協会 会長 平武彦

室蘭商工会議所 副会頭 松永英樹

一般社団法人むろらん100年建造物保存活用会 理事 吉田みゆき

後援：室蘭市、一般社団法人登別室蘭青年会議所

発行年月日：2015年8月18日 Ver.6